

主な出陳宝物紹介

(出陳宝物は全く宮内庁正倉院事務所蔵)



桑木木画碁局
◆くわのきもぐのききょく
囲碁の盤

囲碁に使われていた盤。盤面にある界線の交点には象牙・コクタン・金を象嵌して作った井目を配している。一面に貼り並べられたクワノキの薄板の木目を活かし装飾としているのが特徴だ。側面や脚の細かい部分に描かれた文様や装飾技法にも注目。



平螺鈿背円鏡 ◆へいらんはいのえんきょう
螺鈿かざりの鏡

白銅製で、背面を螺鈿や琥珀、玳瑁などの珍奇な素材で装飾した鏡。内区は鉢(つまみ)を中心に花文が配され、外区には獅子や犀を小花文で囲んだモチーフを主文に鳥や唐花の文様があしらわれている。文様の間隙にも青や緑に輝くトルコ石の細片が散りばめられた美しい鏡だ。



烏犀把漆鞘樺纏黄金珠玉莊刀子
◆うさいのつかうるしのさやかばまきおうごんしゆぎょくかざりのとうす
珠玉かざりの小刀

刀子は携帯用の小刀で、紙を切ったり木を削ったりする実用品として、また腰から下げて身を飾る佩飾品として使用されていた。宝庫に伝わる67口の刀子の中でも大型で、鞘に嵌め込まれた青色のガラス玉と赤の伏彩色を施した水晶が目を引く。



紫皮裁文珠玉飾刺繡羅帶残欠
◆むらさきがわさいもんしゆぎょくかざりしゅうらのおひざんけつ
珠や刺繡で飾った帶

白の絶を、茶褐色の絶と羅で包み、珠を連ねた格子文と小花文の刺繡で装飾。格子文の珠は、深緑・緑・黄・白などの色を用い断続的に織りや染めで濃淡をつける、暈綱模様とされる。真珠・ガラス・水晶などの珠玉を連ねた垂飾も施された、宝庫に伝わる帶の中でも、もっとも華麗な品だ。

第72回 正倉院展

令和2年10月24日(土)
～11月9日(月)全17日間

会場:奈良国立博物館 東新館・西新館

前売日時指定券のみ、当日券の販売はなし

今年のみどころ…

本年は、宝庫に納められている宝物のうち武器や防具のほか、細部にまで技が光る鏡や遊戯具、楽器など多様な品々を出陳。刺繡や染めなどの染織技法、螺鈿や撥鍼などの工芸技法を用いた宝物が見られる。

加えて、光明皇后が、聖武天皇の七七忌(四十九日)に東大寺大仏へ献納したとされる薬物も。当時献納されたのは約60種で、病に苦しむ人々にも分け与えられたとされ、今回は現在も残る38種のうち6種と、宝庫に伝わる薬物2種が出陳される。戸籍や税に関する公的な文書など、奈良時代の社会や暮らしが垣間見える資料の数々も見逃せない。

だっこ円伝
るれ状わ
るはのの
し下様鉢
いがが鏡
も明多に
の確いは
なに中同
んわで心

い用し鳥か芯
るいて取らの
よた納県、絶
こめ東因に
とら部幅ある
がれ)國の墨
わたか(現書
かもらの税在と
てをとの印



御甲残欠 ◆おんよろいのぎんけつ
よろいの残欠

奈良時代に使用された甲冑の形のひとつである挂甲の残片で、甲を形成していた小札(短冊状の小板)と呼ばれる小さな鉄製の板が伝わったもの。小札同士を綴じ連ねる紐を通すための小孔があり、一部には鹿革製の紐と白や紫の組紐が残っている。



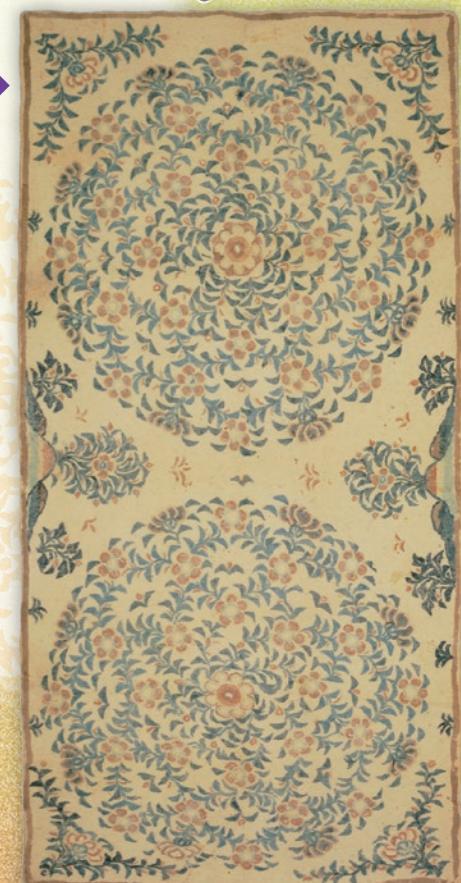
紫檀槽琵琶 ◆しだんそうのびわ
絃楽器

正倉院に伝わる5面の中でも、槽(胴の背面)に装飾がまったくない簡素なつくりとなっている。シタンやコクタン、ツゲなどの材料が贊に使われ、捍撥(撥受け)に貼られた皮革には水鳥と猛禽のいる山水景が描かれる。朱を地色に用いているのは珍しく、絵の表面に油を塗るという技法もありまつて、絵画資料としても注目される。



粉地彩繪箱 ◆ふんじさいえのはこ
献物を入れた箱

宝庫に多く伝わる、仏への献物を納めた箱のうちの一つ。ヒノキ製で、科学調査において、箱を彩る淡緑色の顔料からは塩化物系鉛化合物が検出された。これは日本で用いられた白色顔料に含まれると言われていることから、この品が国産である可能性が高いとされる。



「挂甲」は中国大陸から朝鮮半島を経て伝わった形式で、日本固有の短甲よりも柔軟なつくりだったんだって



縮絨させることは、繊維の仕上げ状を





孔雀文刺繡幡

◆くじやくもんしゅうのばん

刺繡でかざった幡

孔雀と草花、花樹を刺繡で表した幡。裏表から鑑賞できる両面刺繡であることから、寺院の法要等において掲げられた幡の一部でないかとされている。今回出陳される花鳥文刺繡幡残片は、元は本品と一連のものと考えられる。

らな
し刺
れ刺
繡し
て繡
など、
い技
法が
鎖
んが
だ用
ろ
いん
返



墨絵彈弓

◆すみえのだんきゅう

曲芸や楽人が描かれた遊戯用の弓

弾弓とは丸玉を弾く弓で、武器として発生したが、後に遊戯用ともなった。下から3分の1程の位置にある握り以外の部分には、墨で散染とそれを楽しむ人々の姿が細やかに描かれる。弦の中ほどに位置するのが玉をのせる座。



馬鞍

◆うまのくら

騎馬用の座具

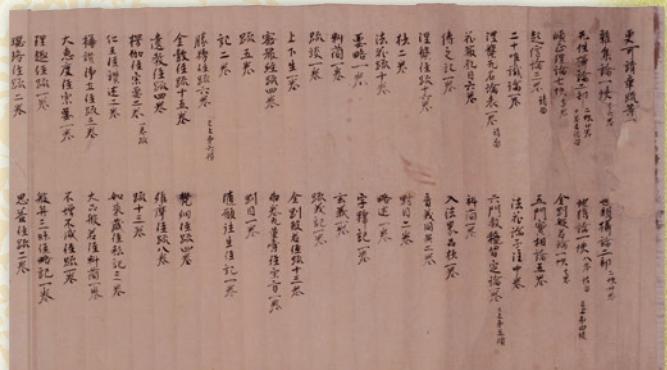
騎馬用の座具。そのうち人が腰かける鞍橋は、ケワやカシなどを素木のまま用いた簡素なつくりながら微妙な曲面をもつ座具として仕上げている点に高度な木工技術がうかがい知れる。鞍脊、鞍柄には花喰鳥や唐花文を染料で染め抜いた皮革を用いている。

続修正倉院古文書後集 第十七卷 [更可請章疏等目録]

◆ぞくしゅうしうしようそういんこもんじょこうしゅう さらにこうべきしうしようしょとうもくろく

書物の借用リスト

天平20年（748）6月10日に、僧の平損が書写するべきものとして選んだ書物のリスト。仏書127部と、それ以外に史書、兵書、天文書や医書など43部の書名と巻数が記されている。『新修本草』は唐の高宗の顯慶4年（659）に完成した薬物に関する書物だが、奈良時代前半には日本にもたらされ書写の計画がされていたことがわかる。

聖武天皇の四十九日にあたる日に、他の遺愛品とともに東大寺大仏へ献納された薬物60種のうちの一つ。献物帳『種々薬帳』には、堂内に安置して仏を供養するため献納するが病に苦しむ人々がいれば薬を分け与えて良いとし、亡くなった場合には花蔵世界に生まれ変わることを願っている。「龍齒」と呼ばれるが、実際は象の歯の化石で、鎮静などの薬効があるとされる。


正倉院とは…

奈良時代の官庁や大寺には、税で徴収された米や布などを納める正倉が設けられており、この正倉がいくつも集まつた区画が正倉院と呼ばれるようになった。しかし、年月とともに東大寺の正倉院内の正倉一棟を除き、他の正倉院はすべてなくなってしまった。現在では、正倉院といえばこの一棟を指す。聖武天皇の遺愛品及び東大寺の寺宝、文書類などが収納され、西宝庫、東宝庫に分け、空調を備えた鉄筋コンクリート製の新宝庫で保管される。

奈良市雜司町129 MAP C-1

☎ 0742-26-2811 (宮内庁正倉院事務所)

①月～金曜（祝日・年末年始は除く）の毎日10:00～15:00

②無料（申込手続き不要） []なし

※正倉院展会期中無休、10:00～16:00

（土日祝も公開し、通常より公開時間を1時間延長）

※公開は「正倉」外構のみ

